

## 【別紙②】「VR自転車交通安全教室」システムイメージ

- ・操作者端末(タブレット端末)から、1度に最大5台の体験者端末(スマートフォン)へコンテンツの同時配信が可能となるため、交通安全教育の運営にかかる負担を軽減できます。
- ・体験終了後、視界ログをもとにスマートフォン上で採点を行うとともに、スマートフォンから視界ログをサーバーに送ります。蓄積したログを分析することで、コンテンツの更新等に活用が可能です。

